

東ティモール：学習教材「ラファエック」を通じた自立支援事業

期間： 2014年6月～2022年6月（8年間）

地域： 東ティモール全13県

対象者：約80,000世帯

ドナー：ニュージーランド政府、ゴールドマン・サックス、CARE支援組織、個人等

事業規模：2019年度から2021年度の総事業規模：年間約1.4億円

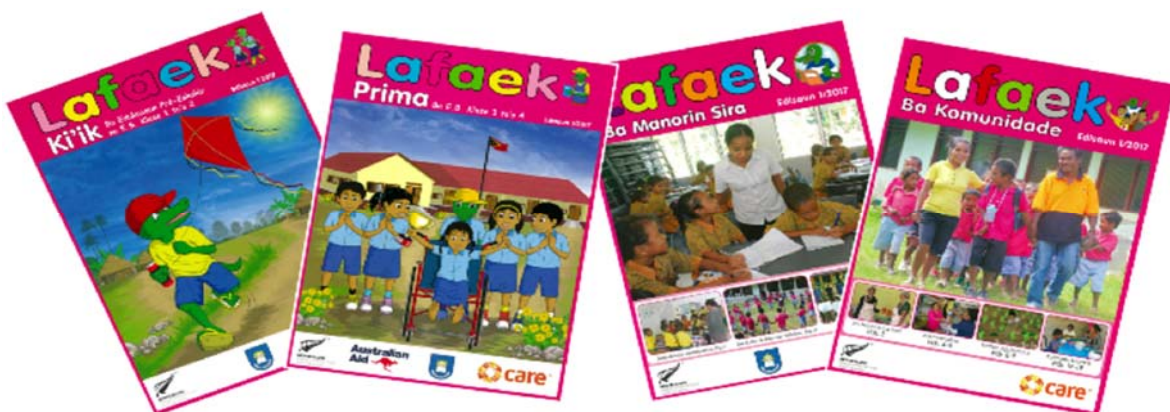


事業の背景：

東ティモールは、国民の40%以上が1日1.95ドル以下で暮らすアジア最貧国の一つに数えられます。特に、農村地域の貧困は顕著で、市場へのアクセス、教育や医療など生活に必要なサービスへのアクセスが限られ、子どもの栄養状態が悪く、ジェンダーに基づく暴力も問題となっています。

識字率は、近年増加傾向にあるものの、67%にとどまっています。2011年に行われた大規模な調査では、小学1年生で、現地語テトゥン語の単語を読むことができたのは、わずか4.17%でした。読み書きを効果的に指導する体制が整っていないこと、教師の欠勤による休講や教師の能力が充分でないこと、また教材や本などの読み物が限られていること等が理由として挙げられます。就学率を改善すると同時に、読み書きの習得に重点をおいた教育の質の改善が急務となっています。

また、子どもの成長や教育には、周りの大人の関与が不可欠です。親の識字能力の低さは、その子どもの栄養・健康状態、そして就学率にも悪影響となって現れ、貧困の連鎖につながってしまいます。子どもだけではなく、学校の教師や、その家族にもアプローチすることで、世帯全体の生活向上に寄与します。



事業目標：

子どもと、読み書きの知識が充分でない大人の学習成果の向上に寄与し、家庭の経済的・社会的な生活向上を目指します。

主な活動：

上記の成果を出すために、次の活動を実施します。



1. 年に3回、4種類の学習雑誌「ラファエック」の制作、配布

- ・子ども用ラファエック（就学前～小学2年生）
- ・子ども用ラファエック（小学3年～4年生）
- ・教師用ラファエック
- ・農村地域の成人用ラファエック

2. 都市の若者を対象とした、WEBサイトやFacebookページ等のオンラインプラットフォームの運用



3. 配布状況管理、個別インタビューやアンケートなどの、調査モニタリング活動

4. 事業の継続性確保のため、東ティモール国内での企業、他団体との連携促進